



ごあいさつ

院長 貝嶋 光信

前号の病院便り（No 52）において、今年7月に西日本の広い範囲で被害の出た平成最悪の豪雨災害（西日本豪雨災害）について触れ、今や日本中どこで災害が起こってもおかしくない時代になったと思っていたところでした。関西国際空港を襲ったあの台風21号が9月5日には北海道に上陸し、あちこちの家の屋根を吹き飛ばしたかと思っていた矢先、9月6日の夜3時6分に胆振東部を震源とするマグニチュード6.7、最大震度7の大地震が起こりました。

千歳市は震度6弱、恵庭市は震度5強であったそうです。

震源地では10名以上の死者を数え、家屋の倒壊などで今なお避難所生活を余儀なくされている方々が大勢いると聞きます。犠牲になられた方々に対し謹んでご冥福をお祈り致しますとともに、被災者の方々にお見舞いを申し上げ、一日も早い日常生活の復活を祈っています。

地震に続く全道停電で、電気の大切さが身にしみた日々を送りました。電気、水道が止まったら！と想像し、防災や減災の備えをすることは、こうしてまた日常生活が戻った今こそ取り組むべきと思います。



X線CT装置の紹介

放射線科 技師長 菅原 寛之

当院のX線CT装置が、2018年8月に東芝Aquilion64 からCANON(旧東芝)Aquilion ONE GENESYS Editionへ更新したので、ご紹介します。

以前まで使用していた、X線CT装置「Aquilion64」は、64列CTの北海道1号機として、当院が導入した装置でした。新しく更新した「CANON(旧東芝) Aquilion ONE GENESYS Edition」は、CANON社製CT装置における、ハイエンド装置となります(図1)

Aquilion ONEは、320列CTと言われており、ハードウェアにおける大きな違いは、列数にあります。64列CTや320列CTなどは、マルチスライスCTといい、マルチスライスCTは、一度に複数の断面を撮影する事ができます。そして、4列・8列・16列・64列と列数が大きくなると、1度に撮影出来る範囲が広がり、それによって、撮影時間が短くなってきました。また、64列CTでは、最大3.2cmの幅を1度に撮影できましたが、今回導入した320列CTでは、16cmの幅を一度に撮影できるので、心臓や脳などは1回転で撮影出来ることから、ブレの少ない、より鮮明な画像を提供出来る様になりました。ソフトウェアの進化も著しく、特に、逐次近似法を応用した、被ばく低減技術は、安全な検査を遂行する上で不可欠であります。Aquilion ONEには、フル逐次近似法を利用したソフトウェアである「First」が搭載されていますので、その他のハードウェアによる低減技術と併せて、撮影する部位により違いはありますが、1/2~最大1/20程度まで被ばく低減効果が得られます。

他にも、CT検査では、金属の周囲は、画像が見えなくなってしまう、金属アーチファクトと言われる現象が出てしまいますが、金属の周囲の観察条件を向上させるソフトウェアである「SEAMER」なども搭載されています(図2, 3)

また、当院の診療放射線技師には、「X線CT専門認定技師」取得者2名が在籍しており、更新前から、救急医療や精密検査など、高度な撮影技術にも対応していました。特に、心臓CTに関しては、導入以来5000件を越える件数を行っており、X線CT専門認定技師による高度な検査により、冠動脈疾患の早期発見や心筋梗塞予防の一翼を担ってきています(図4-1~4-3)

今後も、地域の皆様に、より質の高い医療を提供出来る様に努力して参ります。

図1 CANON Aquilion ONE GENESYS Edition



図2 通常画像

人工骨頭の周囲が金属アーチファクトにより観察できない。

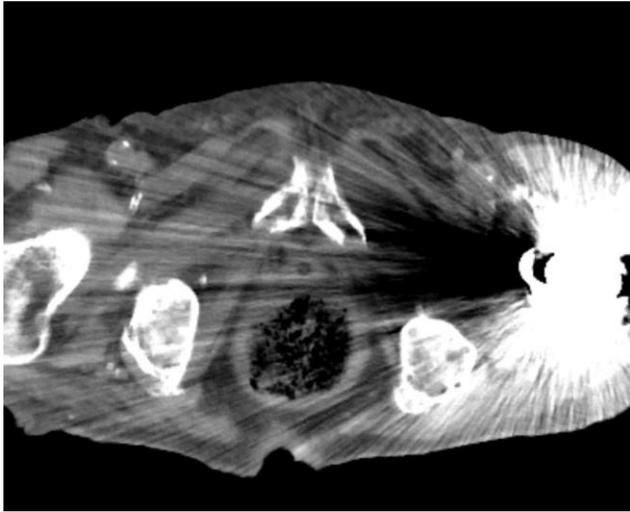


図3 seamerを使用した画像

金属アーチファクトの影響が軽減している。

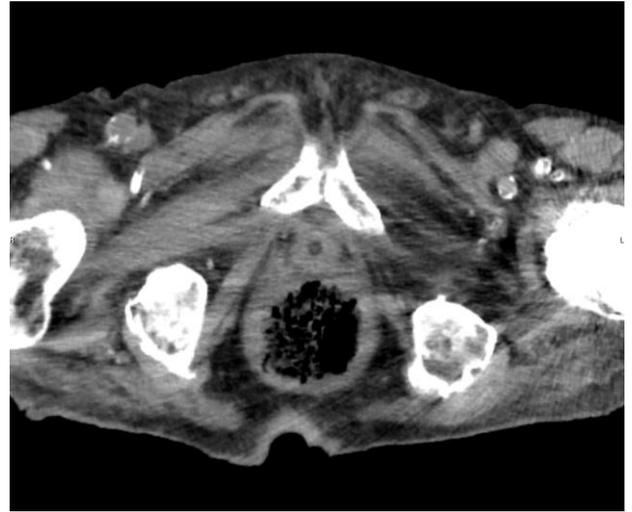


図4-1 心臓のvolume rendering画像.
3D画像処理により心臓全体の概観を観察。

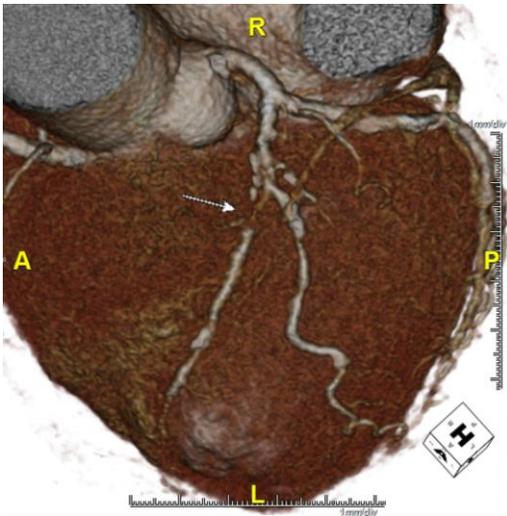
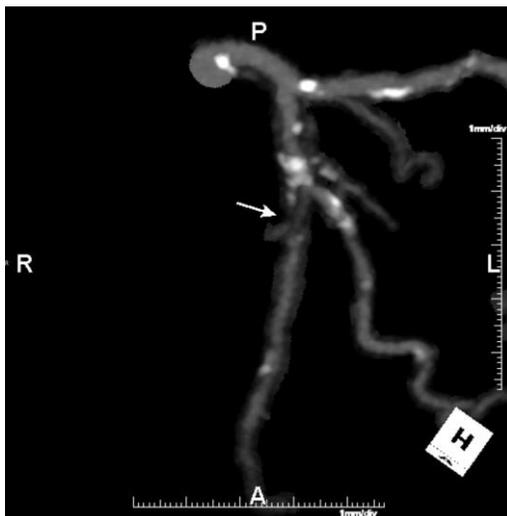


図4-2 左前下行枝のCurved MPR像
血管の内腔を観察



図4-3 左前下行枝のMIP像
血管の概観を観察



恵み野病院 外科のご紹介

副院長 中村 貴久

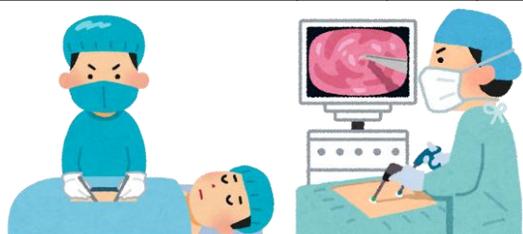
当科は、恵庭・千歳・北広島地区の中核病院の一般外科として、地域に密着した親身で迅速な診療対応を心掛けています。日常診療においては手術を治療の核としますが、外来化学療法や救急対応、訪問診療や緩和ケア・終末期医療などについても精力的に取り組んでいます。治療領域は消化器疾患を主軸に、頸部（甲状腺の腫瘍、リンパ節腫脹）、呼吸器（一部の肺腫瘍、自然気胸）、乳腺（乳がん・良性腫瘍、乳腺症）、そけいヘルニアなど、広い範囲の疾患に対応しています。消化器疾患では食道・胃・小腸・大腸・肝臓・膵臓・胆道などがんのほかに、胆石・胆のう炎や虫垂炎といった良性疾患・炎症性疾患に対する手術も多く行っています。鏡視下手術（腹腔鏡手術）は開発された早い段階より導入しており、胆嚢摘出術・虫垂切除術のみならず、そけいヘルニアや胃や大腸などの疾患に対しても積極的に取り入れています。

当外科の全身麻酔による年間手術件数は、緊急手術を含めて400件を超え、24時間の受け入れ体制により夜間の緊急手術にも対応しています。また週1回以上、医師・看護師・訪問看護・ソーシャルワーカー・リハビリ技師・栄養士らによる合同カンファレンスを行い、多職種間で広く意見を交換しながら、最善の治療が行えるよう日々努力しています。

2017年外科手術症例

入院手術・術式	直視下	鏡視下	合計
胃全摘	8		8
幽門側胃切除	11	8	19
胃部分切除	1	4	5
胃十二指腸穿孔	2	1	3
胃空腸吻合	1	4	5
小腸切除(良性・悪性を含む)	4	1	5
虫垂切除(腹腔ドレナージ併施を含む)		45	45
人工肛門造設	13	1	14
人工肛門閉鎖	7		7
結腸良性(右側)	2	4	6
結腸悪性(右側)	13	11	24
結腸良性(横行～下行結腸)	3	2	5
結腸悪性(横行～下行結腸)	3	2	5
結腸良性(S状結腸)	3		3
結腸悪性(S状結腸)	4	14	18
直腸良性・前方切除(ハルトマンを含む)	2		2
直腸悪性・前方切除(ハルトマンを含む)	1	11	12
経肛門的直腸腫瘍切除	1		1
直腸脱・肛門脱手術	1	1	2
痔核手術	1		1
イレウス(癒着剥離のみ)	7	1	8
イレウス(腸切あり)	7		7
腸吻合	3	1	4

入院手術・術式	直視下	鏡視下	合計
試験開腹・試験腹腔鏡	1		1
腹腔内腫瘍切除		1	1
腹腔内リンパ節生検	1		1
腹腔ドレナージ	1		1
肝区域切除	2		2
肝部分切除	5		5
胆嚢摘出	1	78	79
胆管切除	1		1
胆管空腸吻合	1		1
膵頭十二指腸切除	1		1
膵体尾部切除	5		5
甲状腺部分切除・葉切除	2		2
副甲状腺摘出	1		1
乳房切除・部分切除	18		18
小児鼠径ヘルニア手術	1		1
成人鼠径(大腿)ヘルニア手術	12	45	57
腹壁癒着ヘルニア・膈ヘルニア手術	2	1	3
閉鎖孔ヘルニア手術	1		1
胸壁・腹壁腫瘍切除	1		1
皮下腫瘍切除	3		3
肺部分切除(気胸)		5	5
その他	13		13



	直視下	鏡視下	合計
入院手術小計	171	241	412
外来手術小計	15		15
外科手術総計	186	241	427

病院敷地内禁煙のお知らせ

当院の病院建物内および駐車場、通路を含む敷地内での喫煙は禁止となっております。皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

